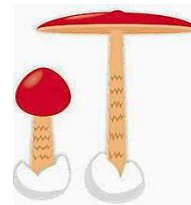


# 久斗山地区公民館だより



令和3年  
9月号

22日発行

久斗山地区公民館

**【ご挨拶】** 今月は稲刈りという大仕事があり、不安定な天気の中でそれに追われているうちに、すっかり秋本番となってしまいました。収穫の季節となり、山から海の幸まで、町内の豊富な農産物や海産物は、たっぷり味覚を楽しませてくれます。読書の秋でもあり、秋の夜長を一冊の本が無限の世界に誘ってくれます。今月末まで延長となった緊急事態宣言、いつ終わるとも知れないコロナ禍ですが、考え方によっては、これまで知らなかった新温泉町内の身近な事を再発見するいい機会ではないかと思います。ワクチン接種者も増えてきています。不自由な状態も、あと少しの辛抱です。

## 【秋深まり、高原の風爽やかに】

季節の移ろいは標高の高い山の上から先にやってきます。町内にある上山高原のススキ草原は、一足先に秋を迎えていました。ここでは、夏から秋の初めに麓の村から牛をつれてきて放牧が行われます。牛はススキの葉先を食べて堅い茎を残し、やがて穂が伸びて花がつき、秋が深まると銀色の穂先が風になびきます。その頃に高原を訪れて、秋風を感じてみてください。



上山高原の草原に放牧された但馬牛のシルエット(9月5日)。

## 【秋の夜はにぎやか！「夜の鳴く虫観察会」】

少しづつ秋が深まるにつれて、夜がにぎやかになってきました。9月11日の夜、久斗山自然教室「夜に鳴く虫の観察会」を開催しました。コロナの緊急事態宣言中ということで、参加は地区の子供と保護者だけ10名。午後5時半に始めて、8時には閉会にしました。暗くなるまで1時間ほどクツムシやコオロギなど、事前に採集してある虫を間近で観察しながら、雌雄の違いなどを勉強しました。ユーチューブで種類ごとに鳴く声の違いなども聴き分けたりしました。6時過ぎには空が夕焼けになり、観察に出発しました。出発前にはヤマビル対策も入念に！すでに枝先でアオマツムシがうるさく鳴いており、網ですくうと、尾が長く奇妙な姿のオオクワゴモドキの幼虫が入りました。虫探しに熱中していると、すぐにタイムリミット。この夜、ツユムシやエンマコオロギ、カマキリなど十種以上の多くの昆虫が見つかり、名残惜しみながら閉会にしました。



オオクワゴモドキの幼虫



エンマコオロギ



ツユムシ



## 【町の博物館その1】：『但馬牛博物館』

県立但馬牧場公園に隣接するこの博物館は、平成30年4月にリニューアルしました。但馬牛の実物の骨格標本や大画面の映像展示により、他に類を見ない但馬牛の特徴がより解りやすく展示してあります。また、平成31年に美方地域但馬牛システムが日本農業遺産に認定されたことにより、今年6月に『農業遺産体験館』がオープンしました。当然、この博物館と当地の中村牧場さんと関係が深いです。因みに、9月24日は第90回美方郡種牛共進会が開催されます。



但馬牛博物館の展示



農業遺産体験館の展示



共進会に出場する中村牧場の牝牛

## 【天気悪く、稲刈り難儀】

秋の天気は vari やすいとしたものですが、今年はお盆明けからずっと不安定な天気でした。秋も深まり、いよいよ稲刈りの時期となりましたが、日中は日射しがあっても夜は雨が降る事があり、田んぼが乾かず、ジルくてコンバインなどが走行しにくく、倒伏している田んぼでは藁が詰ったりして、どの農家もかなり難儀しました。でも今月中には収穫が終わりそうです。お疲れ様でした。



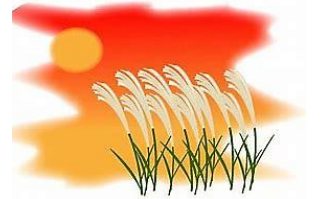
## 【山の実り、今年是不作! ?】

9月12日は「枳の山の口」でした。以前なら、早朝に区長さんが“口切り”を宣言したら多くの村人が競争で奥山に入り、枳の実を拾ったものですが、近年はシカが食べて、ほとんど落ちていません。今年は、実りも少なく、行く人は無かったそうです。



## ○令和3年 10月の行事

- 1日(金) 久斗山大杉神社・境神社 祭礼
- 3日(日) 登山体験「文太郎の碑めぐり」(9:00~12:00 加藤文太郎記念図書館)
- 17日(日) 「芋掘り体験と畑の生き物観察」(9:00~12:00 久斗山地区公民館行事)
- 23日(土) 「扇ノ山紅葉登山」(9:00~15:00 上山高原エコミュージアム)



## クラシックパークvol.21

クインテット アツシュ Quintet Hの音楽の学校

- ・日時: 2021年10月20日(水)  
開場18:30 開演19:00
- ・会場: 新温泉町文化体育館夢ホール  
新温泉町湯990-8
- ・入場料: 大人.....1,000円  
高校生以下...500円  
(全席自由)
- ・チケット販売所  
加藤文太郎記念図書館  
浜坂公民館・温泉公民館  
【お問い合わせ】  
温泉公民館 Tel:0796-92-1870  
主催/新温泉町・新温泉町教育委員会



キンミズヒキの花

## 今月の野草

### キンミズヒキ

山ぎわの路傍などで、草丈五、六センチに細長く伸びた柄の周りに集まって咲く黄色い花が目立ちます。タデ科で赤と白の花のミズヒキ(水引)という別の野草があります。が、それより、こっちはバラ科で金がつくからちよっと上等...というわけでは無いでしょうけど。丸い実にはトゲが多数有り、動物などにくっついて運ばれます。

## かってに昔話

### 谷は緑なりき(第三話)

作、いつこう

俺はこの谷から出て、外の世界をこの目で見るとんだ。その想いにとらわれてしまったコウは、石のみと金槌を手に、天にも届く岩壁に一段一段と階段を作り始めたのです。それは気の遠くなるような作業でした。昼と言わず夜といわず、わずかな眠りとなつて岩を穿ち続けました。谷の外はきつと素晴らしい世界がある。コウの頭の中はその想いでいっぱいでした。そして数十年の歳月の後、ついに岸壁にジグザグに登る石段の道が出来上がり、山の頂へと通じたのです。ある日、コウは背負い袋に水や干し芋など保存の利く食料と着替えなどを入れ、旅立ちの準備をする。意を決して家を出て山へと向かいました。すでに老人となつたコウですが、その足取りは揚々としていました。自分が作りあげた岩の階段を登りきり、山頂へと続く緩やかな岩と氷の斜面を歩く時、一生をかけてやつと念願が叶う想いで胸がいっぱいでした。その日、空はどこまでも青く、冷たいけど風は穏やかでした。そして、ついに山頂に立ったコウが眼下に見た谷の外の世界は、果てしなく続く凍てついた雪の大平原でした。これまでから地球は、氷に覆われてきた氷河期の時代が何度かありましたが、まさにこの時、氷河期のど真ん中でした。ただ、谷の周辺は地熱が地表付近に吹き出し、暖かくて人や生き物の住める唯一の場所だったので、谷だけが天国、それ以外は生き物が住めない氷の世界だったのでした。(おわり)